生乳の需給等に係る情報交換会（第１２回）議事概要

開催日時：令和８年３月 11 日（水）10:00～12:00
開催場所：対面・web 会議
出 席 者：別添参照
議事概要：

農林水産省から、資料に基づき、①生乳生産量等の見通し、②生乳生産の動向、③飲用需要の動向について説明し、それを踏まえた出席者からの意見の概要は以下のとおり。

（１） 生乳生産量等の見通し

（ホクレン）２月の生産量がＪミルク予測よりやや上振れ。２月中旬以降の気暖かさがが要因。脱粉・バター処理量も前年並みに近づく厳しい状況。

（サツラク）分娩が集中したこともあり、年末年始は生乳生産が落ちず、その状況が２～３月まで続いている。成分無調整牛乳に注力しているものの、２月・３月は販売が下がる見込み。春休みとＧＷに向けて生産の伸びが見込まれるため、販売対策をしないと厳しい。

（カネカ）生産量は少ないが、年間一定して変わらない。冬場はバター工場を稼働して対応できている。

（ＭＭＪ）11 月ごろから生産量が増加し、年末年始は見通しを上回ったが、今月に入って生産が落ち着いた。分娩ズレで秋産みになっていることが原因。北海道含め暑熱の影響は大きく、北海道でも繁殖障害が見られるようになってきた。

（東北販連）年末年始は東日本全体で玉突き輸送やＣＳ・ローリー繰越しなどによりなんとか対応。足元では生産量は減っているものの、域内乳業と処理を調整中。予断を許さない状況。

（関東販連）２月は飲用が好調だったが、はっ酵乳が落ちている。年末年始は域内の加工処理の最大化、取引乳業への協力依頼、生乳使用比率を高めるなどの対応に加え、弘乳舎での処理や、ホクレンのタンクを借りた積置きにより対応。年度末の対応については次の３点。①加工処理の最大化。今週末から弘乳舎への送乳が始まる②ＣＳや取引先乳業の貯乳能力の最大化。③生乳使用比率の引上げ。複数乳業から協力いただいているが、引き続き調整中。

（北陸酪連）12～３月の加工仕向けが増加。年末、年度末は生産量が少ないにもかかわらず昨年より余乳が多い。域内乳業も頑張っているが、学乳の有無によって極端に余乳処理量が変動する。この傾向が年々高まっている。

（東海酪連）年末年始は全国連との調整の元、加工工場へ仕向けたが、運賃は相当かかった。３月も同様の状況となる見込み。３月末はＬＬ牛乳を作ってフードバンクや高校等に配ることを計画中。

（近畿販連）生産量は昨年を下回っているにもかかわらず、年末年始は、弘乳舎に持って行くような需給の厳しさだった。年度末はＬＬ牛乳への仕向けの拡大や、子ども食堂への提供等を実施している。

（中国販連）年末年始は、12 月中旬の温暖な気候により予想より飲用需要が伸びたことで当初の懸念とは裏腹に何とか乗り越えられた。２月は飲用需要が前年を下回り、３月も同様の見通しであり、加工が昨年を上回る厳しい状況となる見込み。
（九州販連）２月中旬以降、堅調な生産と寒さ等による飲用需要の低下もあり、加工が増加。３月も同じ状況。春休みは昨年以上に厳しい状況となる見込みのため、弘乳舎や乳業との調整中。
（沖縄県酪）12 月は余乳が発生。１～３月は生産量が前年を下回るが、学校給食の休止期で年度末は余乳が発生する見通しのため、弘乳舎で余乳処理する見込み。
（ちえのわ）年末年始の需給は順調。直近は気候が良くなって乳量が２～３％増えてきた。３月はだぶつく見込みのため、バターを製造する予定。
（ミルクネット）例年と異なり年末年始は特に混乱もなく安定した取引ができた。直近も大きなブレなく安定した取引ができている状況。
（ループライズ）年間契約なので数量としては変化なく出荷できた。生産量もさほどブレもなく例年通り処理できている。
（しんじゅ）生産量は年末にかけて微増。残暑で９・１０月は減少したものの、そこからの立ち上がりが意外によかった。今も増えつつある状況。販売する生乳が少しだぶついている。今年は加工に回すよう依頼しているところ。
（やよい浜風）生産量は前年度と変わらない。

（２）需要期生産について

（ＭＭＪ）数年前から北海道含め夏季に生産量と同時に繁殖成績も落ちている。分娩ズレにより翌年の春生みがいなくなる。暑熱対策をほとんどしていない北海道の酪農家では人工授精では受胎しない。受胎率の高い受精卵移植を実施するもののホル受精卵は市場に出回っておらず、輸入物は非常に高価。自家生産の受精卵をフレッシュで移植するのが現実的ではないか。
（サツラク）暑熱により一昨年の分娩ズレが今も続いている。組合員に対して暑熱対策を積極的に推進し、扇風機やソーカーの導入が進んでいる。昨夏は、夜は気温が落ちることが多かったので、牛の体力はそれほど落ちなかった。
（ちえのわ）暑熱対策は進んでいる。昨夏は、夜は気温が下がったので一昨年ほど乳量は落ちなかった。体力の消耗により９～１０月の受胎率がよくない。春生みの市場相場も 100 万円超えることもあるが、それだけ春生みがいないということ。
（関東販連）関東地域はこの２～３年で急速に暑熱対策が進んでいる。昨夏も、夜が涼しかったこともあるが、暑さが和らぐと急速に生産が回復した。スリック牛導入や、初妊牛の提供地域に春生みを増やしていただくような対策をしていただければ。
（九州販連）昨年は九州管内の乳業に配乳が十分できず、販売制限も発生。昨年の状況も踏まえ、季節別乳価を維持・強化していく予定。需要期生産に取り組みやすい酪農家の施策も組んでもらいたい。

（しんじゅ）夏の繁殖に成功して乳量が延びた場合、冬は今より生産が伸びるのではないか。冬に向けて生産を減らすことができればよいが、間に立つ生乳流通事業者としてはどこを見据えてどういう立ち位置でいるべきかわからず悩んでいる。製造・販売業者の思いがもう少しわかると次のことを考えられるのではないか。

（３）原価を割る牛乳について

（冒頭、牛乳の価値を毀損すること、サプライチェーンのいずれも持続しないこと、他の牛乳価格や生産者乳価への影響も否定できないこと等の懸念点を共有し、その上でのやり取りは以下のとおり。）

（トライアル）本日は貴重なお時間を頂きまして誠にありがとうございます。また皆様に多大なるご迷惑をお掛けしました事、深くお詫び申し上げます。この場をお借りしまして事象、原因、対策をご説明申し上げます。

事象としましては、先週、北陸の店舗にて弊社 PB 商品「北海道浜中産おいしい牛乳」を時限的に 52 円にて販売し SNS 中心にクローズアップされる事態となりました。弊社の値下げ販売ルールは、基準が設けられており、特にブランドを謳う商材は原則不可となっております。原因は、カテゴリー担当者や店舗責任者、本部への判断も仰がず、個々人での判断が招いた事象となります。なお、本件は一過性、且つ個店での在庫過多によるものです。

とは言え、値下げ事実には変わりなく、弊社としては以下の対応を講じております。

①：西友のグループ傘下によるマスでのリスクヘッジによる供給スキームの見直し【注：グループ企業も活用したスケールによる売れ残り回避】

②：棚割り戦略による無調整牛乳の適正な価格設定【注：無調整牛乳の販売単価の見直し】

③：フォーマット戦略【注：小型店舗展開を通じた販路拡大】

④：AI による需要予測検証（一部エリアにて検証開始）

また、本件性悪説に基づき、過剰な値下げ販売を抑制する為のシステムの見直しを始めております。

いずれにしましても、今回は、正しい生乳価格、正しい工賃、正しい各種費用をお支払いする正しいご商売を進めるべきところ、弊社の独断で起こした事象であり、通常通りの価格にてご提供頂いている、多くの関係者の皆様に多大なるご迷惑をお掛けしてしまいました。

弊社も昨年以降、大きく様変わりしております。安いだけのブランディングではありません。精神論では無く、具体論として改善にあたってまいります。

（MMＪ）小売りがあってこその流通・生産と考えており、小売には牛乳に付加価値を付け、量的に安定して売ることを強く求めている。小売りにも生産者にもできる許容範囲があるので、どうやって協力するかが非常に重要。農産物の中で変動相場がないのは生乳だけ。流通形態の新たな布石としてトライアルは頑張っていると見ている。夏、冬一定の箱型契約とは言え、今回の

ようにどうにもならないときには何か解決方法があった方がいい。

（ちえのわ）生産者にとっては年間安定取引ができるが、需給バランスは小売が取らざるを得なくなる。余乳は捨てるのか、安くても売るのか、という選択が現場で起きているのではないか。

（ミルクネット）乳業にどうしても受け取ってほしい時は値引きを実施することもあるが、値崩れしないように慎重に対応をする必要。生産者との取引は固定乳価で崩したことはない。冬の余乳を、加工に回すことができる仕組みができれば、廉価販売は少なくできるのではないか。

（ホクレン）道外移出については、季節偏差を以て、飲用の需給調整も含めて対応してきた。年間固定的に道外移出することによってこのような事象が発生していると受け止めている。飲用もしっかり売りたいという立場はどの者も一緒だが、市場価格が適正に保たれるのがとても難しい環境になってきた。建値を崩さないような方法は、今後も検討していかねばならないと受け止めている。

（関東販連）乳業との取引でも季節別乳価を設定している。また、一定の費用負担のもと、生乳使用比率を高める取組を行っている。建値を維持するには、乳業のキャンセルを受け入れて調整することが何より重要。不需要期にはホクレン・全農が道外移出量を最低限まで落としていただいているなど、広域需給調整があるからこそ、キャンセルへの対応が可能となっていることは言うまでもない。

以上